

第7次埼玉県地域保健医療計画に基づく越谷市域内における 地域包括ケア病床のあり方等に関する意見交換会

地域包括ケア病床については今後、必要性が高まる一方、介護老人保健施設等との関係性については、現状や連携状況等を確認・共有したうえで、病床の整備を進める必要があることから、相互に意見交換会を開催。

【開催概要】

- 日 時：令和元年10月29日（火）19時30分～21時00分
- 場 所：越谷市保健所 2階 大会議室
- 参加者：新たに地域包括ケア病床を整備する病院、越谷市医師会、越谷市内の高度急性期病院、越谷市内の介護老人保健施設・特別養護老人ホーム・グループホーム、医療と介護の連携窓口など

【主な意見】

- 医師会及び医療と介護の連携窓口から
 - ・在宅の後方支援ベッドをお願いしているが、断れたことが多かった。在宅の患者受け入れや、特に医療依存度が高い方のレスパイト入院についても2病院にご協力をいただきたい。
 - ・地域で困っているのは、認知症患者の骨折であるとか誤嚥性肺炎といった方の夜間の受け入れである。是非、夜間の救急受入体制を整えていただきたい。
- 高度急性期病院から
 - ・ポストアキュートとしての機能（円滑な受け入れ）が十分でない。
 - ・比較的軽症でも受け入れ先がないとの理由で救急搬送となり（特に社会的背景に問題のある患者）、その後の加療先の選定に苦慮する。
- 介護老人保健施設等から
 - ・利用者様の急変時の対応が一番の問題となっている。特に夜間については受け入れ先の病院を探すのにとっても時間を要する。
 - ・入居者の急変時に協力医療機関については、非常にスムーズに受け入れていただけるが、それ以外の場合は、昼夜に問わず受け入れ先が決まるまで、時間がかかることが多い。
- 地域包括ケア病床を有する病院から
 - ・現在は外来からの直接入院が多いため、外来に対応するためのベッドを確保しておく必要がある。そのため、医療機関や介護施設等からの紹介患者の待機につながっている。
- 新たに地域包括ケア病床等を整備する病院から
 - ・在宅からのサブアキュートについては、長期入院となることもありベッドが埋まってしまうことが懸念される。

- 地域包括ケア病床のポストアキュート機能、サブアキュート機能（特に夜間）に対する役割に期待する意見が多く、この役割を果たしていくことが必要。
- 地域包括ケア病床については、今後整備する病床や既存の病床についても医師会をはじめ地域の病院・介護施設等との連携を図っていくことが必要。